

岡山大生妊婦意識調査

子ども持つ上で気掛かりは…

経済的負担78%

子どもを持つ上で一番の気掛かりは「経済的負担」。岡山大医学部保健学科の四年生女子二人

が、岡山県内の妊婦を対象に行った調査から、こんな意識が分かった。また、夫の育児休暇取得については約九割が職場での立場や収入減などを理由に「不可能」と回答。男性の育児取得が難しい現状をあらためて浮き彫りにした。(水嶋佑香)

二人は看護学専攻の奥野雅子さん(三三)、宮木ゆかさん(三三)。妊婦を取り巻く環境が、出産・育児への意識にどう影響しているかを探るため、岡

野雅子さん(三三)、宮木ゆかさん(三三)。妊婦を取り巻く環境が、出産・育児への意識にどう影響しているかを探るため、岡

夫の育児取得 91%が「不可能」

が悪くなる(40・7%)
▽解雇が心配(14・8%)
などを挙げた。
指導した中塚幹也教授(母子看護学)は「妊婦の本音がかいま見える興味深いデータで、出産・育児への経済的サポートや出産後の就労をめぐる環境整備を求めていることが分かる。夫の育児については、現状でのあきらめやまんがうかがえるのでは」と分析している。

山、倉敷市の総合病院七施設で健診を受けた妊婦五百三十六人に二〇〇六年夏、計十七項目を尋ねた。

このうち「子どもを持つ上での支障は」(複数回答)の問いには、育児費や学費、妊娠・出産にかかる費用などの「経済的負担」が78・1%と最も多かった。

次いで「就労条件や託児」が49・2%で、育児と仕事の両立が難しい現

取材メモ

▼…奥野さんと宮木さんは四月から、助産師として県内の病院で新たな一步を踏み出す予定。誕生する命とこれから向き合う二人にとって、調査を通して見えた出産・育児をめぐる社会的環境は、予想を超えて厳しい

予想超す厳しい環境

一人息子を抱えて就職活動中。四月からは子どもを保育園に預けたいと、調査では、理想とする子どもの数の平均は二・七人なのに、現実的な人数は二・一人に下がることも分かった。この差をどう埋めるか。二人には今後も「現場」の声を伝えてほしい。(水嶋佑香)

▼…結果は、昨年大卒を卒業した私と同世代の友人が話してくれ、仕事に追われて期待できないのが現実なのだ。待てないのが現実なのだ。この差をどう埋めるか。二人には今後も「現場」の声を伝えてほしい。(水嶋佑香)